

花のチカラ 緑のココロ

2013年 春号

原点回帰

わが国では、年の初めは元旦ですが、生活の始まりは4月です。新学期や新社会人など桜咲く季節の思い出です。日本園芸福祉普及協会も新しい年度を迎え、気持ちを新たにスタートいたします。毎年行っていること、新しくチャレンジすることなどを計画しています。

ここ数年間続いたデフレ基調でのNPO運営は厳しいものでした。全てが右肩下がりの傾向の中、なかなか新しい道を打ち出せないジレンマに陥っていました。今年度から日本経済が上昇に転じるか解りませんが、われらがNPOも再出発したいものです。

『花や緑とふれあい皆で幸せになろう』このスローガンに惹かれた方も沢山いらっしゃると思います。この幸せの裏には、「仲間づくり」や「交流」が不可欠です。

NPOの通常総会とシンポジウムを各地持ち回りにしてから、今年が4年目になります。今年は、6月21日金曜日に新潟県長岡市で開催いたします。そのテーマは『全国の仲間と交流し、活動の更なる活性化』です。花や緑の底力の発揮は、仲間との交流・連携・絆があってこそです。シンポジウムと交流会で、原点に帰って熱く交流したいものです。多くの方々のご参加をお願いいたします。



また、当日のシンポジウムの前に、NPO正会員を対象とした通常総会も同会場で行います。正会員の方には、総会開催通知、出欠返信と共にお送りする議案の理事会の承認等の関係から、5月中旬頃の送付となることをご承知ください。但し、6月21日（金）の11時30分から長岡市駅前のアオーレ長岡で開催することをご予定いただければ幸いです。

専務理事 粕谷芳則



第12回 園芸福祉シンポジウム ながおか

2013年6月21日（金）13：30～ 新潟県長岡市 アオーレ長岡に於いて開催
翌22日には、長岡・見附・栃尾地域の園芸福祉施設や活動の視察研修もあります。
詳しくは「園芸福祉にいがた」の案内チラシをご覧ください。
また、NPOの通常総会を当日同会場で、11：30から開催いたします。



当協会理事で園芸福祉にいがた代表の家老洋さんが、昨年11月にドイツの福祉で有名なベートルを訪問されました。今号から数回にわたって訪問記を連載していただく予定です。ご期待ください。

ベートル訪問記① ～施しよりもしごとを!～

一昨年、日独友好150年の記念事業で「日独友好功労賞」をいただき、その副賞としてドイツ往復航空券をいただいたので、昨年暮れ訪独、北ドイツビーレフェルトにある「神の家」ベートルという福祉の街を4日間訪問して参りました。

つい30年前頃までは、障害者やホームレスが集まる施設・街として一般市民から偏見と差別をもって見られていたベートルも、今は、ドイツはもとより世界各国から年間3千人を超す視察者が訪れる福祉の街として確固たる地位を築いています。

「障害があってもなくても、安心して一生を暮せる社会：ベートル」短い間でしたが、障害者の病院、福祉作業所、福祉工場、グループホーム、特別支援学級、そして教会



等の施設を案内してもらい、どんな重篤な障害者であっても、何もできない、何もさせないのではなく、何かできることをさせている姿勢に感動しました。

また、障害は自己の責任に帰するものではなく、障害がある場合は、その障害を克服するための手段等は国が責任を持って保障すると云う考え方に更に感動しました。

「お金があることが幸せ！」と考える日本社会、お金をやるのではなく、その人にできる仕事を与えることこそが、人間の尊厳を保障し、幸せな生涯が送れるという正に福祉の原点を教えて貰いました。(次回へ続く)

園芸福祉にいがた 代表 家老 洋



【養護教員の方々と】



春におすすめの二冊

「農福連携による障がい者就農」近藤 龍良編著 創森社 ISBN978-4-88340-278-6 ¥1,800 (税別)
かつて日本では農業に携わる人のことをお百姓さんと呼んでいました。百姓とは“百のことを識る人”の意。それほど農業は、作業内容が多岐に渡り、専門的な知識や技術を必要とするものから繰り返し作業を忠実に行うものまで、その作業の豊富さから障がいのある人も含めて誰もが関わり合える職業と考えられています。いま、各地で農業と福祉の連携による障がい者就農が始まっています。本書は、国内外の先進事例のほか、農業における障がい者雇用・就業の実態、抱える問題点、その打開策や支援施策などについて分かりやすくまとめられていて、障がい者就農のバイブルとなる一冊です。

「福祉の町ベートル」橋本 孝著 五月書房 ISBN978-4-7727-0441-0 ¥1,500 (税別)

2012年新春号のこのコーナーでは、「奇跡の医療・福祉の町ベートル」*をご紹介させていただきましたが、家老氏のベートル訪問記連載を記念して、今回は「福祉の町ベートル」をご紹介させていただきます。著者は前書と同じ橋本 孝氏です。この本の副題はヒトラーから障害者を守った牧師父子の物語。福祉の町ベートルがどのようにしてでき、どのように歩んできたのか？ナチスからの迫害にも屈せず愛と信念を貫いたベートルの130年の歴史が語られています。福祉の原点がここベートルにあると言っても過言ではありません。

*「奇跡の医療・福祉の町ベートル」 橋本 孝著 西村書店 ISBN978-4-89013-637-7 ¥1,500 (税別)



活動プログラムのご紹介

昨年福島で実施した「親子の野菜づくり教室」の一環で、園芸福祉のクラフトを行いました。その中から、うつくしま園芸福祉の会の斉藤幸子さんと岡山邦男さんが講師で行った「カラムシトトロ」をご紹介します。小さな子供達は大喜びでした。

カラムシトトロ

材料

色紙 13.5cm×12cm

カラムシの押し葉

押し花（飾り付け用）適宜

白い丸シール

ラミネートフィルム

木工用ボンド、爪楊枝

ハサミ、サインペン



作り方

- 1 カラムシ押し葉の先端をカットする。丸シールに目を書いておく。
- 2 台紙に、押し葉や押し花の配置を考えて仮置きしてデザインを考える。
- 3 配置が決まれば、木工用ボンドで貼っていく。
- 4 作品をラミネートする。

「日本パートナーシップ大賞2012」 グランプリ受賞



3月6日に認定校である三重県立相可高等学校の新谷先生が当協会へおみえになりました。相可高校が取り組んでいる特定非営利活動法人植える美ingと製薬会社等が協働で行った「まごコスメプロジェクト事業」が「日本パートナーシップ大賞2012」のグランプリを受賞したとの報告がありました。

現在販売している商品は5種類で、売り上げの一部は園芸福祉活動の資金となり、購入者も社会貢献ができるそうです。多くの人に幸せと感動を与える事業です。キャラクターには今回から『かきみちゃん』という名前をつけたそうです。みなさんもドラッグストアで見かけたときには、是非お買い求めください。

スキンケア商品「まごころシリーズ」に加わった新たなラインナップは、日焼け止め乳液「まごころ BB ミルク（まごBB）」と「まごころ SP ミルク（まごSP）」です。



スキンケア商品
「まごころシリーズ」

コラム 市民農園万国記
～ルクセンブルグをご存じですか？

ルクセンブルグは、神奈川県ほどの面積で、ドイツとフランス、ベルギーに囲まれた小さな国です。特出すべき資源もなく、昔は貧しかったこの国が、今や一人当たりのGDP世界第一位国になっています。地理的に西欧の中心に位置し、EUの金融センターの役割も担っています。周辺諸国から通勤で働きに来ている人も多い豊かな国です。

欧州の市民農園運動も、1927年にフランスの市民農園指導者レミール神父が諸国の運動の連携を図る組織をつくり、その事務局をルクセンブルグに置きました。今でも『市民農園国際会議(連盟)』の事務局はルクセンブルグに置かれ、私たち日本も毎年ここに年会費を払い、組織活動レポートを提出しています。

この国の首都ルクセンブルグ市は、ユネスコの世界遺産に指定されており、シックで素敵な街です。下町の教会の隣に、第一次世界大戦で心を病んだ兵士が泊まり込んで祈りを捧げた施設がありました。そして、その中庭に宗教が救えない部分を癒す緑の庭もありました。私の拙い語学力では聞き出すのもこの辺りが限界です。次号は、ルクセンブルグの第2弾として市民農園をご紹介しますと思います。(粕谷)



癒しの庭

求む！各地・各人の活動情報

地域組織や個人の園芸福祉活動の情報を事務局宛にお送りください。また、下記 mail アドレスにご連絡ください。会報などはPDFファイルを添付してメールしていただければ皆様に広報させていただきます。

HP アドレス：<http://www.engeifukusi.com/>

mail アドレス：kyoukai@engeifukusi.com

正会員を募集しています

日本園芸福祉普及協会は、NPO法人です。NPO法人は、正会員で成り立つ組織です。協会の正会員の内70%以上の方は、初級園芸福祉士の資格を取られた後に正会員になられた方達です。多くの方に正会員になっていただき、協会運営にお力添えをお願いいたします。

おすすめの一冊

ただ今、会報で紹介させていただくお勧めの本を募集しています。みなさんのおすすめの1冊をぜひお知らせください。ただし、園芸福祉に関連する、あるいは関連すると思われる本に限らせていただきます。お待ちしております！！

編集後記

「春」の語源は、万物のハル(発る)候であることからや、草木の芽のハル(張る)時であるところから。また、春は晴天が多いことから、ハル(晴)。年が開ける意で、ハル(開)。畑をハル(墾)など、はっきりしませんが、その言葉だけで私たちの中に暖かい日差しを運び込む言葉となっているようです。

今年もまた、四季折々、花や緑にチカラをもらって楽しい日々が送れますように。(今井)

NPO 法人日本園芸福祉普及協会発行

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 58

Tel:03-3266-0666 Fax:03-3266-0667

